

# Kizz new town press

もっと知って。もっと好きになる。 きづがわから発信する フリーペーパー  
キッズニュータウンプレス

キッズニュータウンプレスは、  
木津川市から発信するフリーペーパーとして  
立ち上げました。  
今この時期だからこそみなさんと支え合って  
盛り上げていきたい想いです。

FREE PAPER

11月号

2020.November  
vol.004

心、育む。

いいモノいっぱい、「木津川市」。



PHOTO  
書道教室 墨翔- Bokusho -

# 木津川市で伝統を重んじ、個性を尊重する書道家

文字を書く楽しさや書道の魅力を伝えたい

第三回インタビューは木津川市城山台・州見台で書道教室を開かれていた福田匠吾さんにお話を伺ってみました。書家祥洲を父に持ち、3歳の頃から筆と戯れ育ち、伝統書から現代書(仮名・篆刻まで幅広いジャンルを学ぶなど、21歳でプロ活動を開始されました)中国国際書法展一席華大賞受賞や、真言宗正寿院の寺号額・檀書・空室寂寂・揮毫・テレビ出演やライブパフォーマンス、商業デザインなど多岐に渡る活動を展開している福田さん。なぜ木津川市に拠点を置いてくださったか、従来の書道教室との違いなどお話を聞く事ができました。

Q. 福田さんにはどんな目的や目標がありますか？

A. 豊かな想像力を養って1人1人の個性を尊重して書道教室を作りたいと思っています。書道というお堅いイメージが強いと思いますが、私の教室のモットーは「楽しくしっかり学ぶ」という事です。そのため指導には様々な独自カリキュラムを使用しています。そのうち「自由」という授業で、これら何でもたちが自分で書く言葉を決めます。1枚書くと、次に私が見て、

その子の特徴を見て、その子だけのお手本をその場で書く。これは1つのお手本で学年全員を指導する授業とは別に、個性を伸ばすためのカリキュラムとして行っています。さらには筆の持ち方や書き方だけでなく、情操教育も大切にしています。このも自主性を伸ばしつつ、自然に楽しめつつあり、自分の自主性を伸ばし、完全に楽しめつつあり、完全クラス制で取り組んでいる書道教室です。

Q. なぜ木津川市で書道教室を行なうか？

A. 10年前に州見台に住んでいた知人にも指導してほしいと依頼を受けたのがきっかけです。初めは州見台教室1クラスからスタートしました。ありがたい事に1年も経たないうちに人が増え、クラスの増設を繰り返すに至ります。そして私のことも生まれるタイミングで城山台に越えてきて木津川市に拠点を置く事を決意しました。

Q. 福田さんは書道の先生という仕事をこなすことで

どのような気づきや変化価値がありましたか？  
A. 子どもが1つの事に集中できる時間は長くはありません。その時間をどうに持つていくのが重要。そして学校教育だけでは見えない部分をちゃんと見てあげたい。何か嫌なことがあってもここに克服しようという気持ちを持たせてあげられる教室でありたいと思っています。実際、悩んでいる生徒がいた時にその様子に気づけた事がありませんでした。その時に抛り所になつてくれた事は嬉しかったです。

Q. 人生のターニングポイントを教えてください。  
A. 将来の自分の進路が見えなかつた大学時代、父親達が主催するチャリティイベントにスタッフとして参加しました。そのイベント終了後、一緒に参加されていた方々が涙を流して喜んでいました。その姿を見た時、何か胸が熱くなる感覚を覚えました。これがきっかけとなり今の書道家人生へと繋がります。

Q. これからの展望を教えてください。  
A. 将来的に自分の進路が見えなかつた大学時代、父親達が主催するチャリティイベントにスタッフとして参加しました。そのイベント終了後、一緒に参加されていた方々が涙を流して喜んでいました。その姿を見た時、何か胸が熱くなる感覚を覚えました。これがきっかけとなり今の書道家人生へと繋がります。



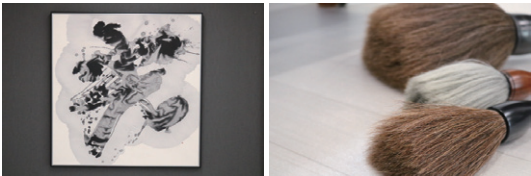
「二人一人の個性を尊重していきたい」

## 福田匠吾

lukuda shogo

1987年京都生まれ。京都精華大学文学部社会メディア学科卒。

大河ドラマ「軍師 官兵衛」題字揮毫などでも知られる書家祥洲を父に持ち、幼少より伝統的表現を基盤にした漢字・仮名・篆刻、そして現代美術まで幅広いジャンルを学ぶ。2011年より書道教室「墨翔 / bokusho」(現:墨翔会 木津川教室)を創設。伝統を重んじ、個性を尊重する書教育にも情熱。



## 書道教室 墨翔- Bokusho -

木津川市城山台11丁目13番18

対象:小学生・一般(中学生以上)  
詳細は公式サイトをご覧ください。



<https://f-shogo.jp/bokusho.html>

A. 教室をやると決めた時に生半かな気持ちではできないし、ちゃんと覚悟を決めてやるの限り続けたいと思っていました。生徒からすれば先生はわたしの知らない。つねに1対1の気持ちで接してきたいです。ただ書道で教えるだけじゃなく1人の人間を育てるという気持ちを持っていたい。そんな教室でありたいと思っています。

Q. 木津川市のごも達にメッセージをお願いします。  
A. 字には上手、下手だけではなくそれぞれに光る個性があります。まずは自分の字を好きになつて、ゆつくりと丁寧に書く。それが字が上手くなる最も大切なポイントです。みんなが同じ字ではなく、それぞれの字があるから個性がある。字は比べるものでもなければ競うものでもないです。時間をかけて字と向き合ってください。やればやるほど身に付くので日頃から練習する事を忘れないうでほしいですね。